

【学校教育目標】

人とのつながりを大切にし、たくましく生き抜く生徒の育成

〈めざす生徒像〉

- 考えが表現でき、課題解決に向かう生徒（学び）
- 相手の立場に気づき、よりよい人間関係を築く生徒（仲間づくり）
- 時と場に応じた正しい判断と行動ができる生徒（社会の規範）
- なりたい自分に向かって挑戦しつづける生徒（挑戦・あきらめない心）

〈めざす教職員像〉

- 生徒の可能性を最大限に引き出し育てることを目指す教職員
- 愛情豊かな心の通った関係性を築く教職員
- 組織人として、責任感、協調性をもち互いに高め合う教職員

〈めざす学校像〉

- 生徒が安心して通いたいと思える学校
- 教職員が一致協力して、主体的に取り組む学校
- 地域の公教育の中心として地域住民から信頼される学校

Ⅰ. 基本方針

学校教育目標「人とのつながりを大切にし、たくましく生き抜く生徒の育成」は、蜂ヶ岡中学校区の生徒・保護者・地域の実態から数年来、引き継がれている。

この学校教育目標を達成するために、生徒のことを最優先に、現場主義の徹底をはかることでお互いの人間性を理解し、信頼関係を築くことを前提とする。そして日常生活のあらゆる場面で生徒に寄り添いながら時間と場所を共有することで、生徒を見守り、その可能性を最大限に引き出し育てることを基本に教育活動を行う。

学習指導要領が示すカリキュラム・マネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現するために、小中一貫の9年間を意識しながら、中学校3年間で生徒の実態や課題、保護者や地域の願い等に応じて、生徒が身につけるべき資質・能力や学ぶべき内容などをわかりやすく示していく。

教職員においては、経験年数に関わらず中核的な役割を担い、各自の得意やそれぞれの立場で、主体的に課題解決に向けて挑戦することを期待する。

学校の取組が、保護者・地域の方にも十分理解していただけるよう情報発信を行い、信頼される学校づくりに努める。

2. 育成を目指す資質・能力

- ① 自ら課題や疑問点を設定し、調べたり解決しようとする道筋を大切にして、学習に向かおうとする力
(課題発見・課題解決、自己調整力)
- ② 他者との関わりの中で多様性を認め、それぞれの立場を理解し、社会貢献する力
(コミュニケーション能力、協働する力)
- ③ 調和のとれた生活習慣を身につけ、自らの生活や人生等を良くするために、時と場に応じた正しい判断と行動ができる。(判断力、適応力)
- ④ 進路や将来の生き方を見据え、目標実現に向けて見通しをもって粘り強く取り組むことができる。
(情報選択能力、粘り強く取り組む力、挑戦する力)

3. 重点項目(目標達成のために徹底する取組)

- ① めざす生徒像」「めざす教師像」「めざす学校像」を達成するために、各係・委員会・分掌で内容を熟慮、精査し、報告・連絡・相談等の連携を通じて、創造的、組織的な学校運営を推進する。
- ② 各種調査や学校評価アンケート等の分析を行うことで、教育内容の質の向上に向けて、教育課程を編成、実施、評価し改善を図る一連のPDCAサイクルを確立するために、研究部を中心に組織的に取り組む。また、生徒の実態に応じた家庭学習についても模索する。
- ③ 生徒の自治能力を高めるため、主体的かつ協働的な活動を行い、達成感や成就感を味わえるような生徒会委員会活動の活性化を図る。
- ④ 生徒の主体性を引き出しながら、深い学びの実現を目指して、知能や技能にとどまらず、思考力や判断力、表現力の育成を図る。
- ⑤ 学びや活動の中に「見通し」「行動」「振り返り」を意識し、自分事として捉え課題発見・解決につながるような探究活動を行う。
- ⑥ あらゆる機会を活かして人権教育や道徳教育と連携し、多様性を認め心身共に健康で生命を大切にする教育を進める。
- ⑦ 学びの質のさらなる向上を目指して、これまでの教育実践とICTを適切に組合せ、GIGA端末を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを実現するために授業改革を目指す。
- ⑧ 教職員一人一人が自らの働き方や資質・指導力向上に向けた意識改革を行う。
- ⑨ 教職員は計画的な研修に努めるとともに、学校内外の様々な経験を通じた自己研鑽を進めるなど、自らの資質・指導力の向上を図る。
- ⑩ 小中一貫教育の推進に向けて、義務教育9年間を見通した共通の目標を設定し系統立てた取組を行う。
- ⑪ 学校評価等から保護者・地域等の指標を活用し、取組の進捗度・達成度を振り返ることで学校運営に生かす。